

REX

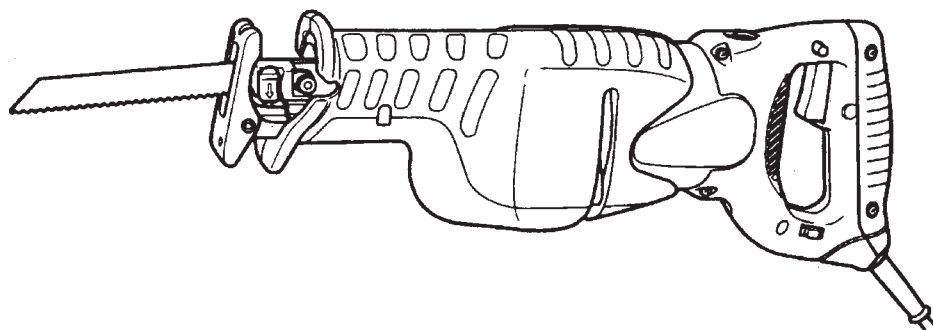
切断機

50/60Hz

ハイパーソー XS130

XS130

取扱説明書



**ご使用前に必ず
お読みください**

—お願い—

- この取扱説明書は、お使いになる方に必ずお渡しください。
- 安全に能率よくお使いいただくため、ご使用前に必ずこの取扱説明書を最後までよくお読みになってください。
- なお、この取扱説明書は、お使いになる方が必要なときにいつでも見られるところに大切に保管してください。

購入年月: 年 月

お買上げ店名:

目 次

	ページ
電動工具の安全上のご注意	2
ハイパーソーXS130の使用上のご注意	5
各部の名称	6
仕 様	6
標準付属品	7
別売部品	7
用 途	8
作業前の準備	8
ご使用前に	9
のこ刃の取付け方・取りはずし方	10
ベースの調整について	13
のこ刃スピードの調整について	13
切 り 方	14
保守・点検	16
ご修理のときは	18
全国営業拠点	裏表紙

警告、 注意、 注 の意味について

ご使用上の注意事項は「 警告」、「 注意」、「 注」に区分しており、それぞれ次の意味を表します。

 **警告** : 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

 **注意** : 誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

なお、「 注意」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので、必ず守ってください。

 **注** : 製品の据付け、操作、メンテナンスに関する重要なお注意。

電動工具の安全上のご注意

- 火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- ご使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、指示に従って正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。



警 告

- ① **作業場は、いつもきれいに保ってください。**
 - ちらかった場所や作業台は、事故の原因になります。
- ② **作業場の周囲状況も考慮してください。**
 - 電動工具は、雨中で使用したり、湿った、または、ぬれた場所で使用しないでください。
 - 作業場は十分に明るくしてください。
 - 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。
- ③ **感電に注意してください。**
 - 電動工具を使用中、身体を、アース（接地）されているものに接触させないようにしてください。
(例えば、パイプ、暖房器具、電子レンジ、冷蔵庫などの外枠)
- ④ **子供を近づけないでください。**
 - 作業員以外、電動工具やコードに触れさせないでください。
 - 作業員以外、作業場へ近づけないでください。
- ⑤ **使用しない場合は、きちんと保管してください。**
 - 乾燥した場所で、子供の手の届かない高い所または鍵のかかる所に保管してください。
- ⑥ **無理して使用しないでください。**
 - 安全に能率よく作業するために、電動工具の能力に合った速さで作業してください。
- ⑦ **作業に合った電動工具を使用してください。**
 - 小形の電動工具やアタッチメントは、大形の電動工具で行なう作業には使用しないでください。
 - 指定された用途以外に使用しないでください。
- ⑧ **きちんとした服装で作業してください。**
 - だぶだぶの衣服やネックレスなどの装身具は、回転部に巻き込まれる恐れがあるので、着用しないでください。
 - 屋外での作業の場合には、ゴム手袋と滑り止めの付いた履物の使用をお勧めします。
 - 長い髪は、帽子やヘアカバーなどで覆ってください。

警 告

- ⑨ **保護メガネを使用してください。**
 - ・作業時は、保護メガネを使用してください。また、粉じんの多い作業では、防じんマスクを併用してください。
- ⑩ **防音保護具を着用してください。**
 - ・騒音の大きい作業では、耳栓、イヤマフなどの防音保護具を着用してください。
- ⑪ **コードを乱暴に扱わないでください。**
 - ・コードを持って電動工具を運んだり、コードを引っ張って電源コンセントから抜かないでください。
 - ・コードを熱、油、角のとがった所に近づけないでください。
- ⑫ **加工する物をしっかりと固定してください。**
 - ・加工する物を固定するために、クランプや万力などを利用してください。手で保持するより安全で、両手で電動工具を使用できます。
- ⑬ **無理な姿勢で作業をしないでください。**
 - ・常に足元をしっかりさせ、バランスを保つようにしてください。
- ⑭ **電動工具は、注意深く手入れをしてください。**
 - ・安全に能率よく作業していただくために、刃物類は常に手入れをし、よく切れる状態を保ってください。
 - ・注油や付属品の交換は、取扱説明書に従ってください。
 - ・コードは定期的に点検し、損傷している場合は、お買い求めの販売店または当社営業所に修理を依頼してください。
 - ・継ぎ（延長）コードを使用する場合は、定期的に点検し、損傷している場合には交換してください。
 - ・握り部は、常に乾かしてきれいな状態を保ち、油やグリースが付かないようにしてください。
- ⑮ **次の場合は、電動工具のスイッチを切り、さし込みプラグを電源コンセントから抜いてください。**
 - ・使用しない、または修理する場合。
 - ・刃物、トイシ、ビットなどの付属品を交換する場合。
 - ・その他、危険が予想される場合。
- ⑯ **調節キーやスパナなどは、必ず取りはずしてください。**
 - ・電源を入れる前に、調節に用いたキーやスパナなどの工具類が取りはずしてあることを確認してください。
- ⑰ **不意な始動は避けてください。**
 - ・電源につないだ状態で、スイッチに指を掛けて運ばないでください。
 - ・さし込みプラグを電源コンセントにさし込む前に、スイッチが切れていることを確かめてください。
- ⑱ **屋外使用に合った継ぎ（延長）コードを使用してください。**
 - ・屋外で継ぎ（延長）コードを使用する場合、キャブタイヤコードまたはキャブタイヤケーブルを使用してください。



警 告

⑪ 油断しないで十分注意して作業を行なってください。

- 電動工具を使用する場合は、取扱方法、作業のしかた、周りの状況など十分注意して慎重に作業してください。
- 常識を働かせてください。
- 疲れているときは、使用しないでください。

⑫ 損傷した部品がないか点検してください。

- 使用前に、保護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また、所定機能を発揮するか確認してください。
- 可動部分の位置調整および締付け状態、部品の破損、取付け状態、その他、運転に影響を及ぼすすべての箇所に異常がないか確認してください。
- 損傷した保護カバー、その他の部品交換や修理は、取扱説明書の指示に従ってください。取扱説明書に指示されていない場合は、お買い求めの販売店または当社営業所に修理を依頼してください。
スイッチが故障した場合は、お買い求めの販売店または当社営業所に修理を依頼してください。
- スイッチで始動および停止操作のできない電動工具は、使用しないでください。

⑬ 指定の付属品やアタッチメントを使用してください。

- この取扱説明書および当社カタログに記載されている指定の付属品やアタッチメント以外のものは、事故やけがの原因になる恐れがあるので、使用しないでください。

⑭ 電動工具の修理は、専門店で依頼してください。

- この電動工具は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
- 修理は、必ずお買い求めの販売店または当社営業所にお申し付けください。
ご自身で修理すると、事故やけがの原因になります。

回 二重絶縁について

電気が流れる導体部と人の触れる外枠部の間が、二つの絶縁物で二重に絶縁されている電動工具で、この製品には“回”マークを表示しています。

二重絶縁工具は、感電に対し安全性が高められています。

異なった部品と交換したり、間違って組立てると、二重絶縁構造ではなくなり、危険です。

電気系統の分解・組立や部品の交換・修理は、お買い求めの販売店または当社営業所にご依頼ください。

ハイパーソーXS130の使用上のご注意

先に電動工具として共通の注意事項を述べましたが、ハイパーソーXS 130として、さらに次に述べる注意事項を守ってください。



警 告

- ① 使用電源は、銘板に表示してある電圧で使用してください。
表示を超える電圧で使用すると、速度が異常に速くなり、けがの原因になります。
- ② 作業する箇所に、電線管・水道管やガス管などの埋設物がないことを、作業前に十分確かめてください。
埋設物があると、のこ刃（ブレード類）が触れ、感電や漏電・ガス漏れの恐れがあり、事故の原因になります。
- ③ 使用中は、機体を確実に保持してください。
確実に保持していないと、けがの原因になります。
- ④ 使用中、機体の調子が悪かったり、異常音がするときは、直ちにスイッチを切って使用を中止し、お買い求めの販売店または当社営業所に点検・修理を依頼してください。
そのまま使用すると、けがの原因になります。
- ⑤ 誤って落としたり、ぶつけたときは、のこ刃（ブレード類）や機体などに破損や亀裂、変形がないことをよく点検してください。
破損や亀裂、変形があると、けがの原因になります。



注 意

- ① のこ刃（ブレード類）や付属品は、取扱説明書に従って確実に取付けてください。
確実にないと、はずれたりし、けがの原因になります。
- ② 使用中は、のこ刃（ブレード類）や切粉の排出部に手や顔などを近づけないでください。
けがの原因になります。
- ③ 使用直後ののこ刃（ブレード類）は高温になっているので、触れないでください。
やけどの原因になります。
- ④ のこ刃（ブレード類）でコードを切断しないよう注意してください。
感電の恐れがあります。
- ⑤ 高所作業のときは、下に人がいないことを確かめてください。また、コードを引っかけたりしないでください。
材料や機体などを落としたとき、事故の原因になります。

各部の名称

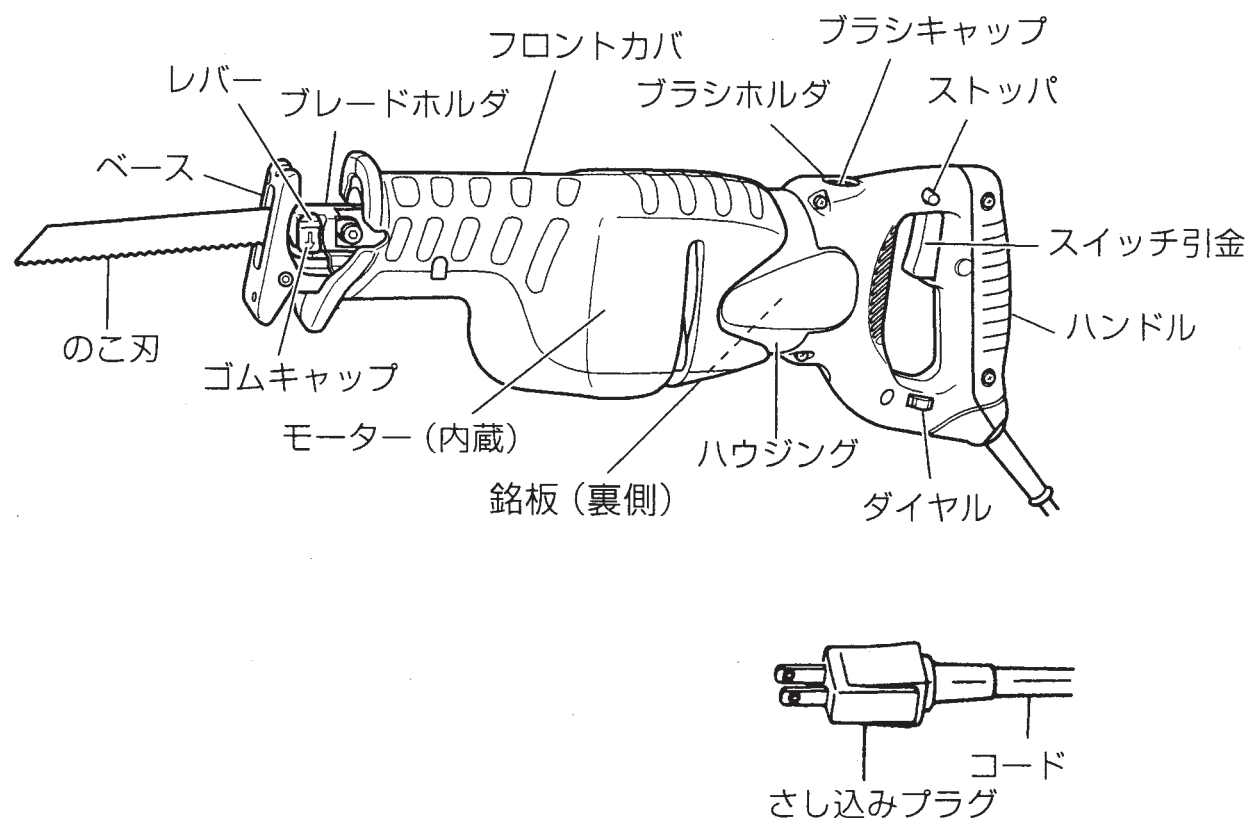


図 1

仕 様

使 用 電 源	単相交流 50 / 60 Hz 共用 電圧 100 V
切 断 能 力	軟鋼パイプ 外径 130 mm 塩ビパイプ 外径 130 mm 軟 鋼 材 厚さ 19 mm
モ ー タ ー	単相直巻整流子モーター
全 負 荷 電 流	10.6 A
消 費 電 力	1010 W
無負荷ストローク数	0 ~ 2800 min ⁻¹ { 0 ~ 2800 回 / 分 }
ス ト ロ ー ク	29 mm
質 量	3.3 kg (コードを除く)
コ ー ド	2 心キャブタイヤケーブル 2.5 m

表 1

標準付属品

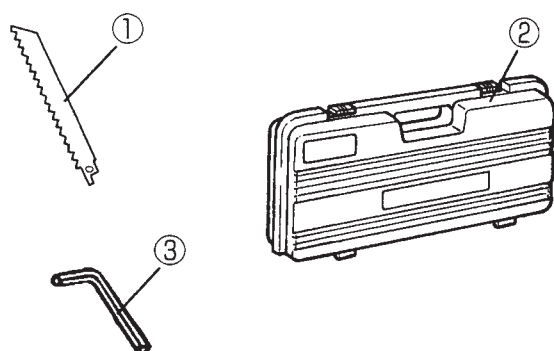


図 2

- ① のこ刃 No.34…………… 1 個
- ② ケース…………… 1 個
- ③ 六角棒スパナ…………… 1 個

別売部品

……………（別売部品は生産を打ち切る場合がありますので、ご了承ください。）

(1) 各種のこ刃

作業の能率や仕上げを良くするには、加工物の材質や厚さに適したのこ刃を使うことが大切です。下表を参照し、加工物に適したのこ刃をご使用ください。

- 注**
- ・表中の最大加工物寸法は、ベースの取付け位置をハイパーソー本体に最も近い位置に取付けた場合の寸法です。ベースをハイパーソー本体から遠ざけて取付けた場合は、最大加工物寸法が小さくなりますのでご注意ください。
 - ・のこ刃は必ず純正品を使用してください。取付け部の寸法が異なると取付け出来ない場合があります。

品名	品番	最大加工物寸法 (mm)		のこ刃寸法(mm)			山数 (山/25.4mm)	材質	梱包 数量
				全長	幅	厚さ			
No.33	380033	鋼 ス テ ン レ ス 管	外径 65	150	18	0.9	14	バ イ メ タ ル	5 枚 入 り
No.34	380034		外径 130	225	18	0.9	14		
No.35	380035		外径 65	150	18	0.9	18		
No.36	380036		外径 130	225	18	0.9	18		

表 2

用 途

- パイプ、アングルの切断
- 軟鋼板、アルミ板、銅板などの切断
- 樹脂パイプの切断

作業前の準備

ご使用前に次の準備をすませてください。

1. 漏電しゃ断器の確認

この機体は二重絶縁構造で、法律により漏電しゃ断器の設置は免除されていますが、万一の感電防止のため、漏電しゃ断器が設置されている電源に接続することをおすすめします。

2. 継ぎ（延長）コード



警 告

- 継ぎ（延長）コードは、損傷のないものを使用してください。

電源が離れているときは、電流を流すのに十分な太さの継ぎ（延長）コードをできるだけ短くして使用します。

導体公称断面積	最大長さ
1.25 mm ²	10 m
2 mm ²	25 m
3.5 mm ²	45 m

表 3

左の表は、コードの太さ（導体公称断面積）によって、機体に使用できるコードの最大長さを示します。

これを超える長いコードを使用すると、電流が十分流れず製品の能率が落ち、故障の原因になります。

3. 作業環境の整備・確認

作業をする場所が2ページの「電動工具の安全上のご注意」①、②、④項にかかげられているような適切な状態になっているかどうか確認してください。

○騒音防止規制について

騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。ご近所に迷惑をかけないよう、規制値以下でご使用になることが必要です。状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

ご使用前に



警 告

- ご使用前に次のことを確認してください。1～3項については、さし込みプラグを電源コンセントにさし込む前に確認してください。

1. 使用電源を確かめる

必ず銘板に表示してある電圧でご使用ください。表示を超える電圧で使用するとモーターの回転が異常に速くなり、機体が破損する恐れがあります。

また、直流電源で使用しないでください。機体の損傷を生じるだけでなく、事故の原因になります。

2. スイッチが切れていることを確かめる

スイッチが入っているのを知らずにさし込みプラグを電源コンセントにさし込むと不意に機体が起動し、思わぬ事故のもとになります。スイッチはスイッチ引金（図1参照）を引くと入り、はなすと切れます。

スイッチ引金を引き、はなしたとき引金に戻ることを必ず確認してください。

3. のこ刃を取付ける

取付けは次項の「のこ刃の取付け方」をご参照ください。

4. 電源コンセントの点検

さし込みプラグをさし込んだとき、電源コンセントがガタガタだったり、さし込みプラグがすぐ抜けるようでしたら修理が必要です。お近くの電気工事店などにご相談ください。

そのままお使いになると、過熱して事故の原因になります。

のこ刃の取付け方・取りはずし方

警 告

- のこ刃の取付け・取りはずしをする際は、必ずスイッチを切り、さし込みプラグを電源コンセントから抜いてください。
思わぬ事故のもとになります。

この機体は、スパナやレンチなどの工具を使用しなくてものこ刃の取付けと取りはずしができるツールレス着脱機構を採用しています。

1. のこ刃の取付け方

- (1) スイッチ引金の入り切りを繰り返して、レバーがフロントカバからいっぱいまで飛び出した状態にします。(図3) その後、スイッチを切り、さし込みプラグを電源コンセントから抜いてください。

警 告

- のこ刃の取付けをする際は、必ずスイッチを切り、さし込みプラグを電源コンセントから抜いてください。
思わぬ事故のもとになります。

- (2) レバーを図4の矢印の方向(レバーに刻印された矢印と同じ方向)に押し下げてください。
- (3) レバーを押し下げたまま、のこ刃をプランジャ先端のスリットにいっぱいまでさし込んでください。のこ刃は上下どちらの方向にも取付けることができます。(図5、図6)
- (4) レバーから指をはなすとスプリングの力で自動的に戻ります。(図7)

警 告

- のこ刃を引張るときは、必ずのこ刃の背面を引張ってください。
刃のついている部分を引張ると、けがの原因になります。

- (5) のこ刃の背面を指で2～3回引張り、のこ刃が確実に取付けられたことを確認してください。のこ刃を引張ったときに「カチャ」と音がしてレバーがすこし動けば、確実に取付けができています。(図8)

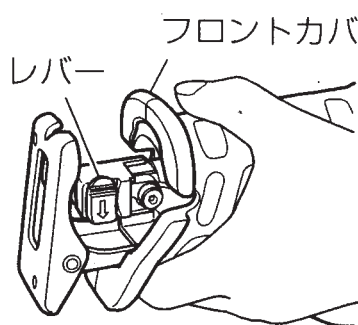


図 3

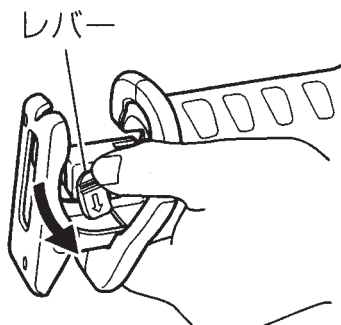


図 4

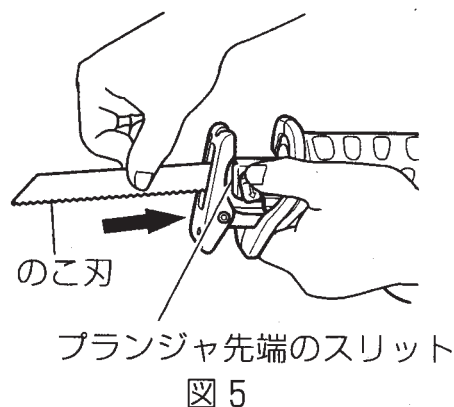
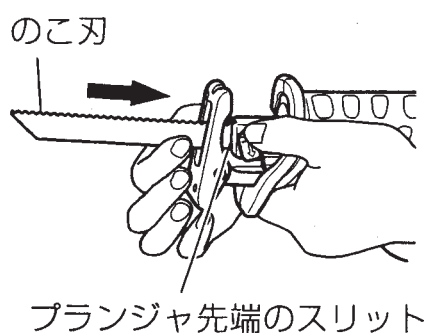


図 5



プランジャ先端のスリット

図 6

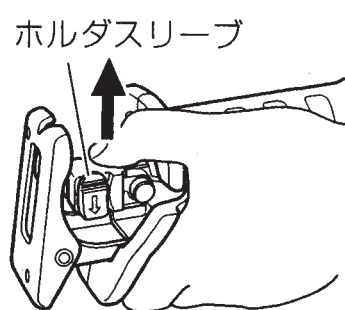


図 7

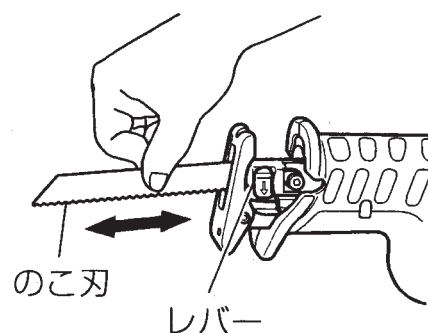


図 8

2. のこ刃の取りはずし方

スイッチ引金の入り切りを繰り返して、レバーがフロントカバからいっぱいまで飛び出した状態にします。(図 3) その後、スイッチを切り、さし込みプラグを電源コンセントから抜いてください。

レバーを図 4 の矢印の方向に押し下げてから、のこ刃を下に向けてください。のこ刃は自然に落下します。自然に落下しない場合は、のこ刃を指で引張って取りはずしてください。

⚠ 警 告

- のこ刃の取りはずしをする際は、必ずスイッチを切り、さし込みプラグを電源コンセントから抜いてください。
思わぬ事故のもとになります。

⚠ 注 意

- 使用直後ののこ刃は高温になっているので触れないでください。
やけどの原因になります。

のこ刃が折れた場合

のこ刃が折れてプランジャのスリットの内部に残ってしまった場合、通常はレバーを矢印の方向に押し下げてから、のこ刃を下に向けることにより折れたのこ刃は自然に落下します。自然に落下しない場合は次のようにして取りはずしてください。

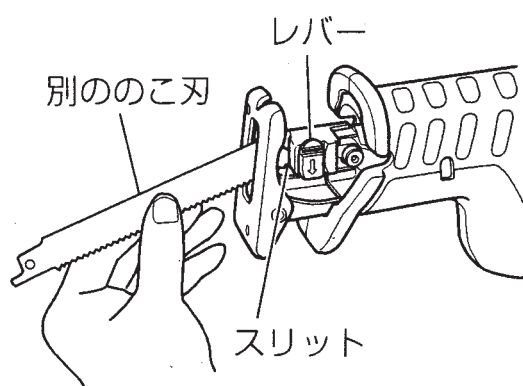


図 9

- (1) 折れたのこ刃の一部がプランジャのスリットから飛び出している場合は、レバーを押し下げて飛び出している部分を引張って取りはずしてください。
- (2) 折れたのこ刃がスリットの内部にかくれてしまっている場合は、レバーを押し下げて別ののこ刃の先端部分を使って、折れたのこ刃を引っかけて取りはずしてください。

3. のこ刃取付け部の保守・点検について

⚠ 警 告

- 穴部が摩耗したのこ刃を使用しないでください。(図 10)
はずれたりし、けがの原因になります。

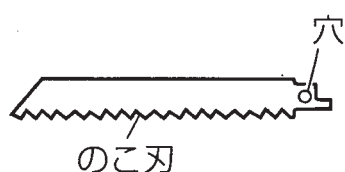


図 10

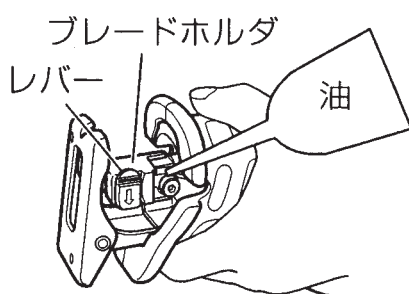


図 11

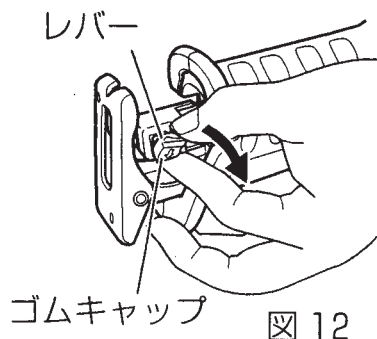


図 12

- (1) のこ刃取付け部がいつも円滑に動くように、ご使用後は切粉・土・砂・水分などをエアーで吹き飛ばすか、ブラシなどで清掃してください。
- (2) 図 11 のように、ブレードホルダ周辺部に切削油などを定期的に注油してください。

注

• のこ刃取付け部の清掃や注油をしないで使用すると、切粉や粉じんによりレバーの動きが重くなることがあります。このような場合は、レバーに付いているゴムキャップを図 12 の矢印方向に引っ張り、レバーからゴムキャップを取りはずしてください。そのあとに、エアーなどでブレードホルダ内部を清掃し注油をしてください。
ゴムキャップはレバーに強く押し付けると取付きます。この時、ブレードホルダとゴムキャップにすき間がないことを確かめた後、のこ刃取付け部が円滑に動作することを確認してください。

ベースの調整について

- (1) フロントカバを図 13 のようにめくってください。
- (2) ベース止めねじを付属の六角棒スパナでゆるめて、ベースの取付け位置を調整します。(図 14、図 15)
- (3) ベースを調整した後、ベース止めねじを付属の六角棒スパナで十分に締付けてください。

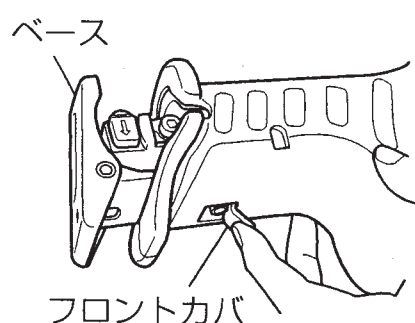


図 13

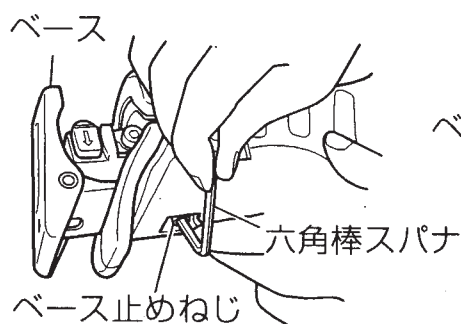


図 14

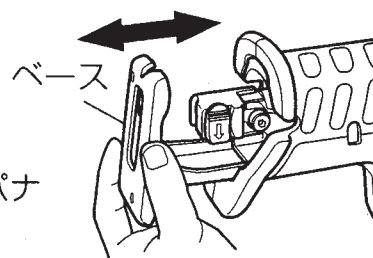


図 15

のこ刃スピードの調整について

のこ刃スピードの調整

この機体は、スイッチ引金の引込み量とダイヤルの両方で、のこ刃のスピードを無段階に調整できる電子制御回路を内蔵しています。

- (1) スイッチ引金を大きく引くとこの刃のスピードが上がります。切断を開始するときは、スピードを下げ（低速）ください。ねらった位置に正確に切り込むことができます。十分な切り込みが得られてからスピードを上げて（高速）切断してください。
- (2) ダイヤルの目盛り“5”が最高速で、“1”が最低速です。下表を目安として、切断材料に合ったスピードでご使用ください。

切断材料の例	推奨ダイヤル目盛り
鉄パイプ	2～5
鋳鉄管・L形アングル	2～4
ステンレス	1～3
アルミ・黄銅・銅	2～4
樹脂パイプ	1～3

表 4

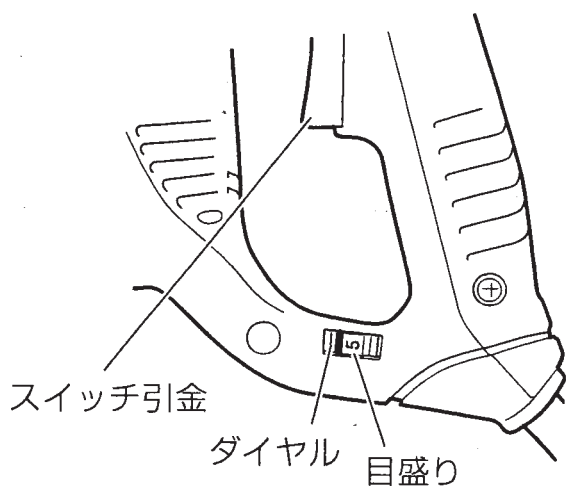


図 16

注

- 低速（目盛り 1～2 程度）の状態では、鉄板 2 mm を超える厚さの材料は切断しないでください。モーターに無理がかかり、焼損の原因になります。
- この機体には強力モーターを使用していますが、低速で長い時間連続して作業すると、モーターに無理がかかり、焼損の原因になります。とくに切断中にのこ刃が停止するような無理な使い方は避け、常に滑らかに切断できるように、のこ刃スピードを調整してください。

切 り 方



警 告

- フロントカバ（図 1 参照）をはずさないでください。
必ずフロントカバの上から機体を保持してください。
- のこ刃を付けた状態で空運転（無負荷回転）は、絶対に行なわないでください。必ずのこ刃を切断材料に軽く当てた状態から運転を開始してください。
空運転すると、のこ刃が大きく振れて折れる場合があります、事故やけがの原因になります。
- 使用中はベースを切断材料に押し当てて切断してください。
しっかり押し当てないと振動により、のこ刃を損傷することがあります。
- のこ刃の長さは、図 17 に示すようにストローク量をさし引いたのこ刃のベースから飛び出し長さが、切断材料より十分大きくなるように選んでください。
のこ刃の切断能力以上の太いパイプを切断すると、のこ刃先端がパイプ内壁に当たってのこ刃を折損する恐れがあります。（図 18）
- 能率良く切断するために、のこ刃のスピードを作業条件、切断材料に合わせて調整してください。

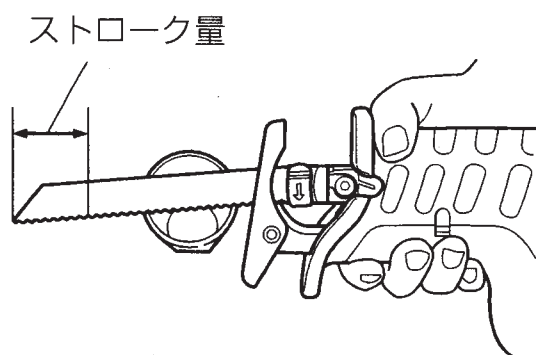


図 17

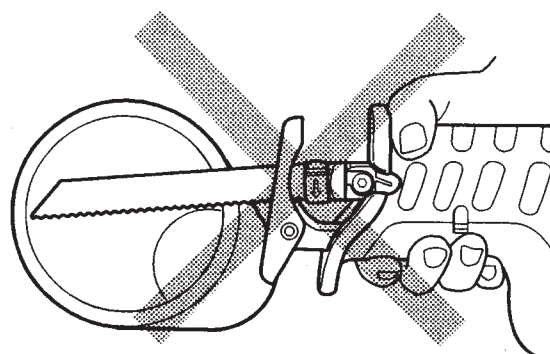


図 18

- 注** • 作業のときにはプランジャ部から切粉・土・砂・水分などが機体内部に入らないように注意してください。切粉などがプランジャ部にたまるときには、その都度、清掃しながら作業してください。

1. スイッチのストッパについて

⚠ 警 告

- 電源につないだ状態で、スイッチに指を掛けて運ばないでください。不意な始動により、思わぬけがの原因になります。
- さし込みプラグを電源コンセントにさし込む前に、スイッチが切れていることを確かめてください。

スイッチは引金を引くと入り、ストッパ（図 19）を押すと指をはなしてもスイッチは入ったままになっており、連続作業に便利です。スイッチを切るときは、再び引金を引いてください。ストッパは自動的にはずれます。

2. 切断作業

⚠ 注 意

- 切断のときに無理な力を加えないでください。のこ刃を折損する恐れがあります。
- ベースを切断材にしっかり押し当ててください。

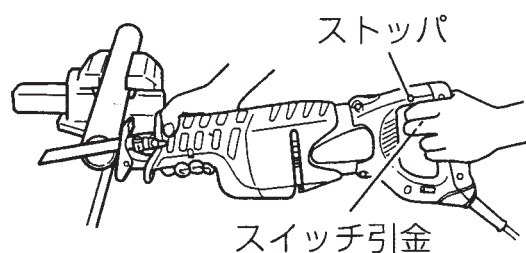


図 19

- (1) 加工物をしっかり固定して作業してください。
- (2) 金属切断の場合は切削油（タービン油など）を使用してください。液状の切削油を使用しない場合は、グリースを加工物に塗ってください。

注 ・切削油を使用しないと、のこ刃の寿命が極端に短くなります。

- (3) のこ刃のスピードは作業条件、切断材料に合わせてダイヤルの目盛りを調整してください。

保守・点検



警 告

・点検・手入れの際は、必ずスイッチを切り、さし込みプラグを電源コンセントから抜いてください。

1. のこ刃の点検

のこ刃の切れ味が悪くなったのをそのまま使用すると、モーターに無理をかけることになり、能率も落ちますから早めに新品と交換してください。

2. カーボンブラシの点検

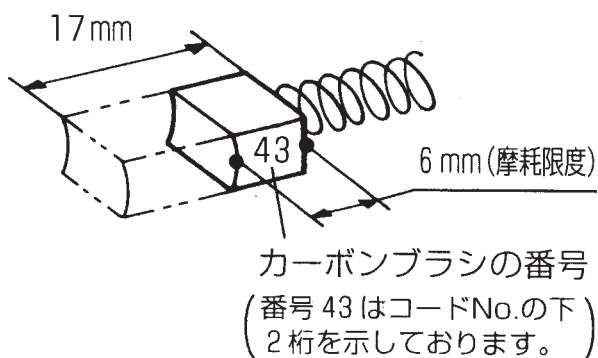


図 20

モーター部には、消耗品であるカーボンブラシを使用しています。カーボンブラシの摩耗が大きくなると、モーターの故障の原因となります。長さが摩耗限度（6 mm）ぐらいになりましたら新品と交換してください。

また、カーボンブラシはごみなどを取り除いてきれいにし、ブラシホルダ内で自由にすべるようにしてください。

注 ・新品のカーボンブラシと交換の際は、必ず図示の番号（43）の日立カーボンブラシを使用してください。

交換方法

カーボンブラシは、⊖ドライバーなどでブラシキャップ（図 1 参照）をはずすと取り出せます。

3. 各部取付けねじの点検

各部取付けねじでゆるんでいるところがないかどうか定期的に点検してください。もしゆるんでいるところがありましたら締め直してください。

4. モーター部の取扱いについて

モーター部の巻線は機体の重要な部分です。巻線に傷、洗油および水をつけないよう十分注意してください。

注 ・ごみやほこりを排出するため、50時間ぐらい使用したら、モーターを無負荷運転させて、湿気のない空気をハウジングの風穴から吹き込んでください。

モーター内部にごみやほこりがたまると、故障の原因になります。

5. 表面とブランジャ部のよごれ清掃

機体の外枠は強じんな合成樹脂製ですが、ガソリン、シンナー、石油、灯油類を付着させると表面をいためます。

清掃の場合は、乾いた布か石けん水をつけた布などでふいてください。

注 ・作業終了後、のこ刃取付け部(図11参照)に切粉・土・砂・水分などを付着したままにしておくとブランジャ部がさびついて機体内部の故障の原因になるので、必ず清掃して保管してください。

6. 機体や付属品の保管

機体や付属品の保管場所として、下記のような場所は避け、安全で乾燥した場所に保管してください。

- | | | |
|--|---|---------------------|
| <ul style="list-style-type: none">○ お子様の手が届いたり、簡単に持ち出せる場所○ 軒先など雨がかったり、湿気のある場所○ 温度が急変する場所○ 直射日光の当たる場所○ 引火や爆発の恐れがある揮発性物質の置いてある場所 | } | このような場所
には保管しない。 |
|--|---|---------------------|

ご修理のときは

この機体は、厳密な精度で製造されています。したがって、もし正常に作動しなくなった場合には、決してご自分で修理をなさらないで、下記のところにご依頼ください。

最寄りの { レキス製品取扱店
レキス工業営業所（裏表紙参照）
レキステクノサービスG 0729-63-1960 }

その他、部品ご入用の場合、あるいは取扱い上でご不明の点がございましたら遠慮なくお問い合わせください。

メンテナンス部品の 保有期間について	この製品のメンテナンス部品の供給は製造停止後7年とします。 ただし電子部品は5年とします。
-----------------------	--

※（外観などの一部を変更している場合があります。）

REX

www.rexind.co.jp

レッキス工業株式会社

東京支店	〒170-0013	東京都豊島区東池袋3丁目13番8号	Tel.03(3980)5341
大阪支店	〒578-0948	東大阪市菱屋東1丁目9番3号	Tel.072(965)9811
札幌営業所	〒006-0832	札幌市手稲区曙2条4丁目3番31号	Tel.011(682)3711
仙台営業所	〒984-8651	仙台市若林区卸町3丁目1番13号	Tel.022(232)1697
東京営業所	〒170-0013	東京都豊島区東池袋3丁目13番8号	Tel.03(3980)5341
前橋営業所	〒371-0846	群馬県前橋市元総社町932番8号	Tel.027(253)8691
神奈川営業所	〒243-0804	神奈川県厚木市関口150番地の1	Tel.046(245)3981
名古屋営業所	〒454-0806	名古屋市中川区澄池町9番3号	Tel.052(351)1551
大阪営業所	〒578-0948	東大阪市菱屋東1丁目9番3号	Tel.072(965)9811
高松営業所	〒760-0072	高松市花園町3丁目7番22号	Tel.087(834)3982
広島営業所	〒734-0022	広島市南区東雲2丁目15番11号	Tel.082(284)8085
九州営業所	〒816-0082	福岡市博多区麦野3丁目18番26号	Tel.092(583)1110
本社	〒542-0086	大阪市中央区西心斎橋1丁目4番5号	
工場	〒578-0948	東大阪市菱屋東1丁目9番3号	

お客様相談窓口

 **0120-475-476**

受付時間：月～金・9:00～12:00 13:00～17:00